

「アキュラシードによる臨床支援」～免疫チェックポイント阻害薬と ACTH の迅速測定～

座長 : 赤尾 智広 (社会福祉法人恩賜財団 済生会今治病院 検査部)

演者 : 糸原 智生 (日本赤十字社 松江赤十字病院 検査部)

「アキュラシードによる臨床支援」～免疫チェックポイント阻害薬と ACTH の迅速測定～

◎糸原 智生

日本赤十字社 松江赤十字病院 検査部

当院は島根県東部の3次救急を担う病院で、31の診療科を擁する599床の地域基幹病院である。当院検査部ではかねてより他メーカーで副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)の測定を行ってきた(測定時間:65分)。ACTHは視床下部-下垂体-副腎皮質系の疾患の診断と病態の解明に不可欠な項目である。血中ACTHが異常を示すのは、視床下部の障害・下垂体の障害および標的臓器である副腎の障害である。

近年は、がん免疫療法の免疫チェックポイント阻害薬が様々な悪性腫瘍に適用になり、抗PD-1抗体や抗PD-L1抗体、抗CTLA-4抗体といった薬剤ががん治療に使用されている。これらの薬剤は免疫反応活性化により抗腫瘍効果を示すが、過度な免疫反応が引き起こされる免疫関連有害事象(irAE)が報告されている。irAEは全身の臓器で発現するが、その中の一つに内分泌障害があり、内分泌障害を評価するためにACTHなどのホルモンの測定が重要視されている。irAEを迅速に発見するためにも、短時間で結果報告をできる環境が求められている。

当院ではすでにアキュラシードを導入し他項目を測定していたが、短時間で結果が出るACTH測定用試薬が発売され検討する機会を得たので、その導入結果と当院での免疫チェックポイント阻害薬の事例を交えて報告する。